おるたなさんシンブン

いふくまち保育園

ごしょがだに保育園

ごしょがだに保育園が開園しいふくまち保育園と共に新体制となりあっという間に日々が過ぎました。4月の頃の「わーわー」いっていた園の様子がなつかしいです。おるたなさんシンブンでは「子育て支援員」を改め「おるたなさん」の取りくみや日常、好きな事をゆるーく紹介します。前号から半年以上も時間が経ちました。年4回の発行を目指してと言ってましたが、まあこのペースだと年1回かなんて思っています。

きかせて

こどものたましいで出来ている話題のあの曲歌詞をご紹介します

キドリーヌさん

Happy ♡ Lucky　　キドリーヌ

ハッピーさんと　ラッキーさんが　こんにちわ
ハッピーさんと　ラッキーさんが　こんにちわ
たいへん　たいへん　たいへん　たいへん　たいへん　たいへんだー
たいへん　たいへん　たいへん　たいへん　たいへん　たいへんだー
にこにこしてたら　ハッピーさんと　ラッキーさんと　ミラクルさんが

＝

たいへん　たいへん　たいへん　たいへん　たいへん　たいへんだー

＝

ミラクルさんが　ミラクルさんが　やってきたよー
ミラクルさんが　ミラクルさんが　やってきたよー
こんにちわー　こんにちわー
こんにちわー　こんにちわー
ハッピーさんと　ラッキーさんと　ミラクルさんは
なかよしなんだ
ハッピーさんと　ラッキーさんと　ミラクルさんは
なかよしなんだ
ハッピーさんと　ラッキーさんと　ミラクルさんが
なかよくしたら
ハッピーさんと　ラッキーさんと　ミラクルさんが
なかよくしたら
うれしいなー　たのしいなー　うれしいねー　たのしいねー

トヨさんより　えんでのこと

ずっぷん前に書いていたのです。

古小鳥公園のはたけには夏野菜が元気よく育っています。公園に行く度に様子を見る事が楽しみです。トマトはわき芽を次々と伸ばすので放っておくと主茎が分からなくなる程茂ってしまい光合成の効率が悪くなり養分が分散してしまい実つきが悪くなります。新しく出てきたわき芽を見つける度に取り除いています。食べ物が身近な公園で収穫できる事は園児達にも興味深い様で畑の野菜に集まる顔ぶれもだいたい決まっていて水やりや収穫を進んで手伝ってくれてます。給食の調理の際に出る野菜の皮などから堆肥作りを以前にやりました。有効微生物や菌の力を借りて畑の肥料にしています。その時に使っていた「EMぼかし菌」という名前をおぼえて口ぐせの様に言っている子がいます。彼の畑と野菜への愛情はとても深く原木しいたけをいふくまちで育てていた時は顔を見るなり「ねぇねぇしいたけ」と声をかけてくれます。公園の畑で作業をしているといつの間にか側に来て「ねぇねぇトマト…。」「ねぇねぇオクラ…。」「ねぇねぇEMボカシ菌」土づくりや野菜を通して育んだ関係は私の宝物になりました。

狭い範囲にたくさんじゃがいもを植えた為収穫量はいまひとつでした。

チョット!!ふきこさんよんでるんすよ。

こんなほん～

(かんそう) 今まで敬遠していたことをはげしく後悔! ロマンス好きな5人の兄姉のおりなすラプツェルのお話が兄姉のキャラクターと合様って重層的な楽しさです。70ページ程の短いお話です。『ろまん燈籠』太宰治著

オススメ　ぷらぷら暮らすための使える情報がとにかく満載な実用書です!『ひきこもらない』pha著

オススメ　そろそろ世界も人間も全体が肯定的な非物質世界に突入するってばよ。『2040年の世界とアセンション』吉濱ツトム著

ふるむミキさんトゥYou☆

こんにちは、ミキと申します。今年の春から週に 1、2 日ですが、保育園で働いています。先日、ナナエ さんから、「おるたなさんしんぶんで何か書きませんか?」とお話をいただきまして、何を書こうかと悩んでい ました。ナナエさんに相談すると「外国の話が聞きたいなぁ」とのこと。それじゃあそうしよう、とアジアを放浪していた時のことを書いちゃいました。

インド、ヴァーラーナシー

バスと列車を乗り継ぎ、ネパールのカトマンズからインドのヴァーラーナシーを目指しました。寝台列車の２段あるベットの上で寝ていると、足元に気配を感じます。驚いて起きると、知らない男の人がいて、履いている靴を盗もうとしています。「えっ!?」と言うと、逃げて行きました。靴紐でしっかりと結んでいたので、簡単には脱がすことができなかったようです。 中国→チベット→ネパール→インド。すでに２ヶ月以上旅していて、疲れ果てていたので、怒る気にも怖がる気にもならず、靴紐を結び直し、また眠りにつきました。

「チャ~イィ~チャ~イィ~」という車内に響く低い声で目を覚ますと、チャイを売るおじさんが車内にいました。辺りを見回すと、どこかの駅に停車中。乗っていた人々が降り、これから旅をする人々が乗ってきて車内がごった返しています。近くの人に「ここはどこの駅ですか?」と聞くと、「ヴァーラーナシー」との答え。急いで荷物をまとめ、飛び降りました。

ヴァーラーナシーはインドでも有名な聖地で、世界中から人が集まってきます。インド各地から巡礼者が 集まってきていて、オレンジ色の服に身を纏った人達が、町中にいました。ヴァーラーナシーの中心地からすぐのガンジス川では、沐浴や洗濯をしている人がいます。ヨガをしている人もいます。この地で死んだ人は、輪廻から解脱できると考えられているため(ヒンドゥー教)、インド各地から死体が送られてきます。その死体をガンジス川の川辺で焼いたり、川に流したりするのです。また、生きている間にこの地に来て、死を待つ人々もいます。

ある日、一緒に旅をしていたパートナーと歩いていると、3、4 人の少年達が近寄ってきました。パートナーの T シャツを指差しながら、口々に何かを言っています。何かの注意をしているのだとはわかるけれど、何を言っているのか、よく分かりません。ヒンディー語が全く理解できず、予定もあったので、私たちは気にせず歩き続けました。少年たちも着いてきます。歩いていると、少し前に牛がいました。インドでは、牛は聖なる生き物として、大切にされているため、自由に街の中を闊歩している野良牛が沢山います。 聖地ヴァーラーナシーには特に多く生息しているようでした。

突然、目の前にいた牛がパートナーをチラ見したかと思うと、頭を低くして、角を向けて突進してきました。私達二人「ぎゃっ!」と声をあげ、横に避け、なんとか衝突は免れました。牛は、くるりと振り向き、 もう一度こちらをチラ見して、ゆっくりと別の方向に歩き始めました。「あぶねー!」と思いつつ、突然のことに固まったまま、去っていく牛のお尻を見つめていました。私たちの後ろにいた子ども達から大きな笑い声が聞こえます。

「Red T-shirts! 」誰かが叫びました。そうか！パートナーが着ていた赤いＴシャツに、牛が興奮したんだ。たしかに、スペインの闘牛も赤いマントを翻して、牛を刺激する。牛は本当に赤に興奮するんだ！と感心しつつ、後ろで笑い続けている子ども達を振り返ると、その中のひとりがしたり顔で一言。「だから、言ったのにっ！」この言葉は、ヒンディー語だろうが何だろうが、直に伝わってきました。

「忠告をありがとう、インドの子ども達よ。でもさ、笑い過ぎ。分からなかったんだから。あと、わりと怖かったよ、牛の突進。」とヒンディー語で言える語学力はなく、ただただ、微妙な笑みを子ども達に返しました。

インドへ行く際は、ヒンディー語を勉強するか、赤いＴシャツは避けましょう。

おるたなさん

Sakai Sakiko

おるたな新聞を初めて見られる方もいらっしゃると思いますが、ぜひ園のHPを覗いてみて下さい。過去のおるたな新聞がご堪能いただけます。HPに掲載した矢先に取材が飛び込んでくる等園内外にその旋風を巻き起こしているおるたな新聞。読みどころ掴みどころ満載となっています。一括りに「おるたなさん」と肩書きを背負って下さってますが、ぶっとぶような個性派ばかり。園内でバイオリンを奏でてくれたり、海外の有名ミュージシャンにイラストを提供されていたり、宇宙や星のことを目をキラキラさせて話してくれたり、ヨガインストラクターやヘアメイクアップアーティストとして活躍されていたり、アップサイクル商品を開発していたり、その個性は100人100通り。おるたな新聞ではそれを少しでも垣間みれるのではないでしょうか！みんなの力が集まると、すごいことになる――!!と実感してもらえたら嬉しいなあと思います。おるたな新聞は誰でも寄稿できますので「おるたなさん」と呼ばれたい そこのあなた、ぜひ投稿に参加して下さいね。

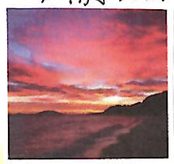
Are you Oruttana?

日の出前に家を出発し早朝の海に行きました。

ゆっくりと明けてくる空がしだいに赤くなり海に着く頃には赤から青のグラデーションを映す海面と空とても美しい景色を見る事ができます。日中は外出する気にもなれません。海水に入れば暑さも少し忘れますが強い日差しの中砂浜でジリジリ焼かれるのはしんどいものです。午前中の涼しい時間帯に海で遊び正午前には帰路につく。人混みを避けられて早朝の人がいない海を満喫できる夏の楽しみのひとつです。くらげの出るお盆以前に毎週遊びに行きます。

ニュースもないなんで

年々夏の暑さが厳しくなり思いきり海で遊び正午前には帰路につく。人混みを避けられて早朝の人がいない海を満喫できる夏の楽しみのひとつです。くらげの出るお盆以前に毎週遊びに行きます。



一緒に行った子供達は早々と水着に着替え海へ走っていきました。姉ケ浜にて。

トヨさんより

ある日のいふくまち

この日は「タモリ」多め貸し出し可。

皆さんOYA BOOKSを知っていますか?絵本にまざって何となく気になる題名の本がいつでも並びます。本のセレクトはいふくまちのオオヤさん。本の入れ換えはこまめにされ彼の頭の中を垣間見た気がする物が置かれています。ごしょがだにの保護者の方も是非とも見に行ってみて下さいね。トヨさん

プラネタリウム ななえ館 epi.3

満天の星をみるために、まるさんが何度か山へ連れて行ってくれたのですが、私たちがあまりに楽しげだからか、雲までぞろぞろとついてきて、いまだに天体観測できなくて…夏、終わろうとしています。6月には京像にホタルをみに行きました。そのときも私はひとり空を見上げ、星もあまり出てないのでUFOでもいないかしらとぼんやりしていると、白く光るうねうねしたヒモのようなものが飛んでいるではないですか。誰も信じてくれないだろうけど〜とその場の皆に話してみると、まるさんの夫の左雄一さんは「竜じゃない?!」と言います。いいえ、あれは一反木綿です。妖怪です。すぐに消えたので証人はいませんが、一反木綿です!!

今回のプラネタリウムは星座と神話のお話はお休みです。代わりに私が大好きな天文随筆家，野尻抱影さんのエッセイを紹介させてください。1945年に書かれたものです。平凡社「星は周る」より引用、一部省略。

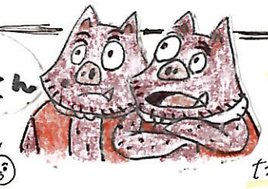
ななえ

星無情

今日は原爆忌である。新聞に句集「広島」の引用を幾つか見た。中でも、「髪束になって抜ける星座ひしめいて」の句には目も耳もふさぎたくなった。陰惨に過ぎて、活字に残しておくのさえどうかと感じられた。「逃げのびる行方を月の塀にかく」という句があるので、その晩は月明かりがあったらしい。繰ってみると、上弦を少し過ぎた宵月である。鬼気に満ちた死の呻吟の街の上に何事もなかったように空が澄みわたり、そこに月がけろりと光輝いていた。生き残った人たちの中には、これを憎悪の目で見上げた人が必ずあったに違いない。そして月が落ちると、さそり、射手、織女、牽牛など夏の星がいつもに変らず空をちりばめる。夜が更けては秋に見る星、夜明けにかけてはすばる、オリオンさえも昇る。髪をすき、またはせめて結ぼうとした女性は前々からそういう星座を見知っていた。ところが、女の命の一部である黒髪がごっそりと抜け落ちた。泣くにも泣かれない恐怖と絶望である。そしてうつろな目で見上げる星座はいつもと変りなくひしめき合って、髪の如く密に、天の川の星々はさらに密に、銀砂子のように埋まっていた。もしこの女性に少しでも心のゆとりがあったなら、星空へ拳をふるいたくもなっただろう。人間が異常な事件に遭遇した時にいつも感じるのは、月や星が冷厳なことである。私も娘が亡くなった前夜、四方空襲の火の空で、いつもと変りなく瞬いている星に強い憤りを感じた。けれど今私が思い出したのはカロッサの次の言葉である。

われわれの喜び、われわれの嘆きを星は永久に聞きとりはしない。しかし星々の輝きはわれわれが喜び、嘆きに堪え得るよう、いつも優しい調子を保っていてくれる。

ニジボさん イノシシさん



いのししは害獣なのか?

たべれるの?

(アンダーライン部はテストに出やすい所なのでおぼえておいて)

にじほさんがイノシシの解体を…。そんなファンタジーなワードを耳にした。ごしょがだに保育園とアルバスの業務をこなす働きが目に眩しいにじほさんに話を聞いた。(その時は給食のドライカレーを食べた)つるされて血抜きされた猪の骨を『ばきっ』と割って全ての内臓を取り出す作業は『割と血まみれ』その後ホクを使って腹から頭まで皮をはいでいきます。これだけ聞くと猟師ライクなタフでワイルドな感じのにじほさんになってしまいますが、猪の解体に関わっていた頃大学のオーケストラサークルに所属しながら…というハーモニーのあるライフスタイルでした。サークルの一輩が起業した「糸島ジビエ研究所」そこで見慣れているカリ売りされた肉にも命が確かにあった事、生命が食肉へ加工される工程を自ら経験する事で大きな実感を得た。時には80kgを超える猪(これはものの大姫のあのヤツか?)の捕獲に立ち合う事もあれば子供のウリ坊が罠にかかった時には助けに来た親の猪が待ち構えている事もあるという命がけの体験をした。山くじらともよばれる猪肉はその赤身に旨味がしっかりとある。栗やどんぐりなどの大自然の恵みを貯えた各場の猪肉は脂が乗っている。適切に処理された物はくさみが全くない。普段私たちが食べている家畜豚の祖先種にあたる猪。その野生味あふれた味は何度でも食べたくなる。サクッとした歯ごたの脂身には甘みがあり炭火焼きなんかで塩焼にした物にワサビを乗せて食べるのがにじほさんのオススメです。オーガニックな食品や生態系に配慮され生産される物と同じ様に猪肉は自然が育んだ天然のスーパーフードと言える!「糸島ジビエ研究所」では精肉はレストラン等へ卸していて直接買う事は難しそうだがソーセージやハムに加工された猪肉は食べる事ができるそう詳しく入手について知りたい方はにじほさんにお声かけをしてみて下さい。

音楽と映画の小噺 ニジボさんより

ちょっと一息つきたいとき、ゆったりしたいお家タイムに。
お互い関わりのある音楽と映画を紹介します。

歌劇「フィガロの結婚」序曲 W.A.モーツァルト 作曲

『英国王のスピーチ』 トム・フーパー 監督

幼少時から吃音に悩んでいた、イギリス第2次世界大戦下の国王ジョージ6世。彼が吃音克服のためライオネルという言語理療士と出会ったシーンの中で登場するのがこの曲である。

ときにユニコミカル、ときにシリアスな人を描くこの作品。コリン・ファースの吃音の再現もさることながら、ライオネルのジョージ6世との掛け合いさらには国王の妻エリザベスのライオネルへのアドバイスも見守るあたたかい演技とても良い映画です。

ちなみにこの曲、生で聴けます。
2022.1.9 FFGホール(福岡市博多区)
アマチュアのオーケストラですが、ご来場(入場無料)
詳しくは私まで、お問い合わせください。

新月・満月と人間の関係

ヨギーのお部屋

こんにちは、ふみこです。
今回は、月と人の関係についてゆるーりとお話ししたいと思います。
レッスンを始める前にも、今日の月はー〜と話しながら、身体のコンディションをチェックしてもらいます。

月は日々、形を変え、地球と私たちの身体に少なからず影響を与えているといわれています。
約29日かけて地球のまわりを一周して満ち欠けをくり返します。
同じ月でも「新月」「満月」「上弦の月」「下弦の月」と満ちていく月の期間に分けて、月が出すパワー、エネルギーも変わっていきます。

月の満ち欠けをチェックしていくことで毎月起こる心境の変化を前もって知ることができます。

新月 開始・浄化・手放す
- 太陽と月が重なっている時。
- 願望や願いが叶いやすい。
- 心と体もさまざまな栄養分を吸収していく成長期。
- 手放す必要がある事柄は浄化させ、デトックスする。

三日月 前進・学習
- 新月を0として、3日目の時。
- 新月でスタートさせたことの地盤を固める時期。
- 精神的にも積極的で行動的になるので、人と会うことに向いている。

満月 完成・吸収
- 新月から15日目。
- 新月で始めたことが実る時期。
- 体に取り入れたものがとても吸収しやすいと言われており、栄養素を摂取すると良い。
- 感情的になりやすい。

下弦の月 整える・落ち着く・冷静
- 新月から23日目。
- 次の新月に向けて何が必要かを考える時期
- いらないものは全て手放してみる。
- 冷静さも保てる時期なので、話し合いにも最適。

二十六夜 浄化の準備
- 新月から26日目。三日月の反対向き。
- 新しい新月を迎えるため浄化の準備を始める。
- 瞑想などで精神を安定させると良い。
- 体を緩め、自分自身を見つめる事が増える。

月のリズムを感じながら、自然の流れを受け入れてリラックスした時間を過ごしてみてくださいね。